

## 再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

|   |  |                         |  |                       |   |
|---|--|-------------------------|--|-----------------------|---|
| 事業名   | 一般国道17号 <small>しづかわにし</small> 渋川西バイパス                              | 事業区分                    | 一般国道   | 事業主体                  | 国土交通省<br>関東地方整備局  |
| 起終点   | 自:群馬県 <small>しづかわ</small> 渋川市中村<br>至:群馬県 <small>しづかわ</small> 渋川市金井 |                         |  | 延長                    | 2.8km   |
| 事業概要  |  |                         |  |                       |   |
| <p>一般国道17号は東京都中央区を起点として、さいたま市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。</p> <p>渋川西バイパスは、群馬県と長野県を結ぶ地域高規格道路「上信自動車道」の一部を形成し、渋川市内の交通渋滞の緩和と渋川・吾妻地域の連携及び活性化の支援を目的とした延長5.0kmのバイパス事業であり、そのうち2.8kmについて事業を実施している。</p>   |  |                         |  |                       |   |
| H16年度事業化  |  | H22年度都市計画決定<br>(バイパス区間) |  | H25年度用地着手<br>(バイパス区間) |   |
|   |  | H29年度工事着手<br>(バイパス区間)   |  |                       |   |
| 全体事業費   |  | 約258億円                  | 事業進捗率(令和6年3月末時点)約91%   | 供用済延長                 | 0.9km   |
| 計画交通量   |  | 18,100~27,600台/日        |  |                       |   |
| 費用対効果分析   | B/C (事業全体)   | EIRR (事業全体)             | 総費用 (残事業)/(事業全体)<br>26/312億円   |                       | 総便益 (残事業)/(事業全体)<br>356/406億円   |
|   | 1.3  | 5.3%                    | (事業費: 12/295億円)<br>(維持管理費: 14/17億円)  |                       | (走行時間短縮便益: 298/335億円)<br>(走行経費減少便益: 48/58億円)<br>(交通事故減少便益: 9.9/13億円)                    |
|   | 1.9 [2%]   |                         |  |                       |   |
|   | 2.4 [1%]   | 147.5%                  | (事業全体)<br>交通量 B/C=1.3~1.4(±10%)<br>事業費 B/C=1.3~1.3(±10%)<br>事業期間 B/C=1.2~1.3(±20%) |                       | (残事業)<br>交通量 B/C=12.4~15.1(±10%)<br>事業費 B/C=13.1~14.4(±10%)<br>事業期間 B/C=13.4~13.7(±20%) |
|   | (残事業)  |                         |  |                       |   |
| 13.7  |  |                         |  |                       |   |
| 15.6 [2%]   |  |                         |  |                       |   |
| 16.6 [1%]   |  |                         |  |                       |   |
| 事業の効果等  |  |                         |  |                       |   |
| ① 交通渋滞の緩和<br><ul style="list-style-type: none"> <li>国道17号下郷交差点～吾妻新橋南交差点付近の速度低下により、渋川市内の交通混雑が発生。</li> <li>平成25年度の現道拡幅区間の開通により、並行する国道17号の旅行速度が約10km/h向上、渋滞損失時間が約70千人時間/年削減され、渋川市内の交通混雑の緩和に寄与。</li> <li>今後、バイパス区間及び上信自動車道の整備により、交通の円滑化が図られ、更なる交通混雑緩和が見込まれる。</li> </ul> |  |                         |  |                       |   |
| ② 安全性・信頼性の向上<br><ul style="list-style-type: none"> <li>国道144号、国道145号、国道353号及び周辺道路は、災害時に脆弱な道路であり、多数の通行規制が発生。</li> <li>上信自動車道の整備により東吾妻町役場から群馬大学医学部附属病院(第3次救急医療施設)の所要時間が約14分短縮。</li> <li>渋川西バイパスは、上信自動車道の一翼を担い、吾妻地域の安全性・信頼性の向上に寄与。</li> </ul>                          |  |                         |  |                       |   |
| ③ 地域の活性化<br><ul style="list-style-type: none"> <li>群馬県はキャベツの主産地(収穫量全国1位)であり、嬭恋村産の主な出荷先は、東北・関東方面が約6割を占める。</li> <li>国道144号・145号及び国道353号では、線形不良箇所が多数存在し、ドライバーの負荷が懸念。</li> <li>渋川西バイパスを含めた上信自動車道の整備により輸送時間短縮と安定輸送が図れ、地域の産業活動に寄与。</li> </ul>                             |  |                         |  |                       |   |
| ④ 観光活性化<br><ul style="list-style-type: none"> <li>草津温泉・伊香保温泉・四万温泉・万座温泉の観光入込客数は、群馬県内主要温泉地全体の約7割。</li> <li>草津町の年間観光入込客数は約300万人(令和4年)。</li> <li>渋川西バイパスを含めた上信自動車道の整備により、渋川伊香保ICから草津温泉までの所要時間が約28分短縮され、観光活性化に期待。</li> </ul>   |  |                         |  |                       |   |

関係する地方公共団体等の意見

・群馬県知事の意見：

本事業は、本県の渋川・吾妻地域の連携強化や活性化に大きく寄与する上信自動車道の一部（起点区間）を担うとともに、国道17号の交通渋滞の緩和や道路交通の安全性向上等を図るうえで重要な事業であり、国が公表している令和7年度の完成に向けて着実な事業推進を図りたい。

なお、コスト縮減を徹底し、効率的、効果的に事業を推進されたい。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業の継続を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・国道17号鯉沢バイパスにおいては、平成20年7月に渋川市東町関下～渋川市白井間が4車線開通。渋川市白井～渋川市上白井間が暫定2車線開通。
- ・国道17号前橋渋川バイパスにおいては、バイパス区間が平成22年3月に暫定2車線開通。うち現道拡幅区間は平成24年3月に4車線開通。
- ・国道353号金井バイパス・川島バイパス・祖母島～箱島バイパスが令和2年6月に開通。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地進捗率は100%（令和6年3月末時点）。
- ・平成16年度に事業化後、平成25年12月に現道拡幅区間の渋川市中村～渋川市石原間 延長0.9km（4/4）開通。
- ・バイパス区間は、令和2年度に用地取得が完了し、順次工事を実施中。
- ・切土区間である渋川市入沢地先では、令和元年より、函渠工を実施中。また、盛土区間である渋川市金井地先にて、令和3年度より、函渠工及び盛土工を実施中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・バイパス区間（延長1.9km）は、令和7年度の開通に向けて、改良工及び函渠工、舗装工を推進しているところ。

施設の構造や工法の変更等

- ・改良工の増工及び物価・労務費上昇により事業費の増加。
- ・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

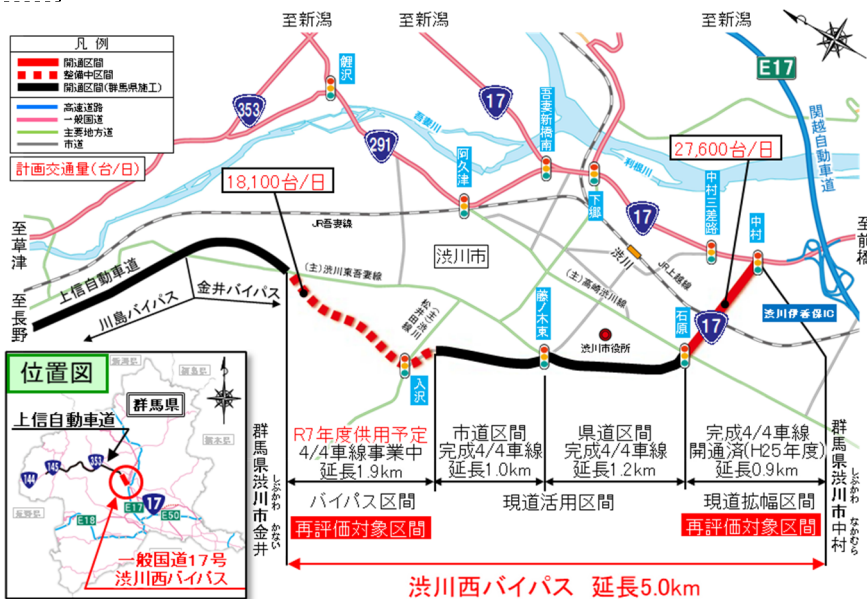
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)